

## 高校生の「学び直し」に対する支援

### - 学習上の躓きに対する回復指導の効果に関する考察 -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
発達・福祉臨床クラスター  
二井 弘泰

文部科学省は、2013年から実施する高等学校学習指導要領に、義務教育段階の学習内容の習得が不十分な生徒に対し、確実な学習の定着を促すための取り組みを行うように求めた内容を初めて盛り込んだ。近年、高等学校に在籍する生徒の中に、基礎的な学習内容の定着が不十分で、学業不振となり、そのことを事由に中途退学する生徒が増加してきている。本研究は、高校生に対する基礎的な学習内容の躓きの回復指導の効果について調査検討したものである。

高校1年生119名を対象として、小学校5年生で履修した「割合計算」の課題について、解答状況を調査し、その後、介入的な授業を行い、授業後に割合計算の正答率がどのように変化したかを検証した。調査の方法としては、中断的時系列計画を用いた。また、回復指導の方法として、日常生活から習得している知識（インフォーマルな知識）を活用した指導方法を用いた。この結果、回復指導の前後で、正答率に有意な上昇が見られ、介入的な授業の効果を示した。この割合計算に対する回復指導の効果は、他の教科学習にどのような影響を与えるかについても検証したところ、高等学校生物科の学習での割合計算を用いて行う実験考察問題や知識確認問題において、一定の効果のあることが示唆された。

同時に、学習意欲の変化についても質問紙調査を実施した。回復指導の効果と学習意欲の変化については、有意な関連を見いだすことができなかったが、回復指導をより効果的に実施するために考慮しなければならない指導上の留意点について有用な知見が得られた。

躓きの回復過程で生じる課題や回復指導に関する高校生の考え方については、面接インタビューによって直接意見を聴取した。この結果、躓きを持っている高校生は、学習成績や学習内容の定着に対しての不安は強いが、高校生という様々な社会的な経験を経た時期に再度学習することに有効性を認めていることが明らかとなり、回復指導の有用性が示唆された。

躓きの回復指導は、「学び方の学び直し」でもある。回復指導を実施する中で、知識の詰め込みだけでなく、理解することの重要性や考えることの必要性について、改めて当事者が認識していく過程を見ることができた。新たな学びへの「刺激」を与える契機となる指導であることも検証された。

以上のことから、高校生に対する躓きの回復指導が、ひとつの教科にとどまらず他の教科学習や学び方の変化についても有用であり、より発展的な学習への「刺激」になっていることが示唆された。